

- 問1 愛知県内の工業立地の特徴について、交通網との関係を説明した記述として正しいものはどれですか。 (2023年 埼玉県公立入試 類似)
1. 高速道路の路線に沿うように、自動車の組み立て工場や部品工場が配置されている
 2. 新幹線の駅周辺にのみ、自動車を組み立てるための大規模な工場が集積している
 3. 輸送時間を短縮するため、すべての部品工場が港湾施設の中に建設されている
 4. 地価を抑えるため、高速道路や鉄道から遠く離れた山間部に工場が点在している
-
- 問2 宮城県や福岡県のように、その地方の中で最も人口が多く、高速道路や新幹線などの交通網が結節する地点に位置する都市が果たす役割について述べたものです。こうした、地方全体の経済や行政の拠点となっている都市を何と呼びますか。 (2017年 福岡県公立入試 類似)
1. 地方中枢都市
 2. 政令指定都市
 3. 三大都市圏
 4. 過疎地域
-
- 問3 日本の主要な工業地帯・地域の中で、年間の工業出荷額が最も大きく、その内訳において自動車などの輸送用機械が占める割合が約4割を超えている工業地帯を選びなさい。 (2017年 沖縄公立入試 類似)
1. 中京工業地帯
 2. 京浜工業地帯
 3. 阪神工業地帯
 4. 北九州工業地帯
-
- 問4 日本の大豆の自給率が約7%という低い水準にとどまり、大量の輸入を必要としている背景として、大豆がどのような用途で大量に消費されていることが挙げられますか。 (2018年 富山県公立入試 類似)
1. 米の代わりに主食として、日常的に炊飯して食べられているため。
 2. バイオ燃料の原料として、国内の自動車走行の主なエネルギー源となっているため。
 3. 豆腐や納豆などの食用だけでなく、食用油の原料や家畜の飼料としても広く利用されているため。
 4. 化学繊維の主な原料として、衣服の製造に不可欠な素材となっているため。
-
- 問5 1950年代半ばから始まった高度経済成長期における、日本の産業構造の変化と第二次産業の役割について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2026年 岐阜公立入試 類似)
1. 技術革新や設備投資が盛んに行われたことで、製造業や建設業を中心とした第二次産業が経済成長を牽引した。
 2. 農林部での機械化が進んだ結果、農業に従事する人口が急増し、第一次産業が第二次産業の生産額を上回った。
 3. サービス業や情報通信業などの第三次産業が衰退し、その労働力がすべて製造業の現場へと投入された。
 4. 資源の輸入を制限する政策がとられたため、国内の鉱業が第二次産業の中で最も高い割合を占めるようになった。
-
- 問6 製造品出荷額等において、石油・石炭製品の金額が2兆円を超えて突出している一方で、農業においても野菜の産出額が約1,900億円と全国的に高い水準にある県はどこか、次の中から選びなさい。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
1. 茨城県
 2. 鹿児島県
 3. 宮崎県
 4. 千葉県
-
- 問7 日本の大都市圏に含まれる自治体の農業統計において、小松菜やホウレンソウ、花き（観賞用の花）の生産額が他の地域に比べて高い割合を占めることがあります。このような農業が、大都市の周辺で発達した背景として最も適切な理由はどれですか。 (2015年 山口公立入試 類似)
1. 大都市の市場が近くにあり、鮮度が重視される作物を収穫後すぐに届けられるため。
 2. 大都市周辺は農地価格が安く、一度に大量の肥料や農薬を投じる効率的な生産が可能のため。
 3. 交通網の発達により、遠方の地域から届く安価な輸入野菜と価格競争をする必要があるため。
 4. 冬でも温暖な黒潮の影響を受けやすく、加温施設を使わずに野菜を栽培できるため。
-
- 問8 沿岸国が、海岸線から一定の距離までの海域において、水産資源や海底の鉱物資源を独占的に管理・開発する権利を持つ水域を何といいますか。また、国際的な条約で定められている、その範囲を示す距離として正しい組み合わせを選びなさい。 (2021年 和歌山公立入試 類似)
1. 排他的経済水域（沿岸から200海里以内）
 2. 領海（沿岸から12海里以内）
 3. 接続水域（沿岸から24海里以内）
 4. 公海（沿岸から500海里以内）
-
- 問9 茶の産出額の割合を示した統計資料において、全国の31パーセントを占めて第1位となっている静岡県に次ぎ、29パーセントを占めて第2位となっている都道府県はどこか。 (2026年 埼玉公立入試 類似)
1. 鹿児島県
 2. 京都府
 3. 三重県
 4. 愛知県
-
- 問10 日本を訪れる外国人旅行者が、日本国内での滞在中に買い物や宿泊、飲食などのサービスに対して支払う消費活動を何と呼びますか。 (2017年 愛媛公立入試 類似)
1. インバウンド消費
 2. アウトバウンド消費
 3. 国内旅行消費
 4. 地産地消
-
- 問11 日本の魚介類の自給率が低下している背景と、その現状を説明する仕組みとして最も適切なものはどれですか。国内消費量が約800万トンであるのに対し、国内生産量がその約半分である約400万トンまで落ち込んでいる現在の統計上の数値に基づいて考えなさい。 (2016年 長崎県公立入試 類似)
1. 国内消費量と国内生産量の差（約400万トン）を輸入に頼っているため、自給率が下がっている。
 2. 国内生産量を増やすために輸出を促進した結果、国内消費量が不足し、自給率が下がっている。
 3. 国内消費量が国内生産量を大幅に下回っているため、自給率が100%を超えている。
 4. 食生活の変化によって肉類の消費が増えたため、魚介類の国内消費量と輸入量の両方が減少している。
-
- 問12 日本のある農産物について、全国の収穫量に占める都道府県別の割合を調べたところ、第1位の静岡県が38.0%、第2位の鹿児島県が30.2%、第3位の三重県が8.4%となっていました。この統計が示している農産物として最も適切なものを次から選びなさい。 (2016年 長崎県公立入試 類似)
1. 茶
 2. 米
 3. レタス
 4. じゃがいも
-
- 問13 日本の三陸沖では、南から北上する暖流の黒潮（日本海流）と、北から南下する寒流の親潮（千島海流）がぶつかり、世界的な好漁場が形成されています。このように、異なる性質を持つ海流が衝突し、多くの魚が集まる海域を何といいますか。 (2023年 愛媛公立入試 類似)
1. 潮目（潮境）
 2. 大陸棚
 3. バンク（浅瀬）
 4. 湧昇流
-
- 問14 地中から噴き出す天然の蒸気を利用してタービンを回す発電方式や、強い風が得られる海岸沿いに設置された風車、日当たりの良い斜面や沿岸に並べられたパネルを利用した発電方式に共通する特徴として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 沖縄公立入試 類似)
1. 天候や地形に関わらず、常に一定の電力を安定して供給し続けることができる。
 2. 発電時に二酸化炭素を排出せず、地球温暖化の防止に貢献することができる。
 3. ウランなどの輸入資源を主原料としており、少量の燃料で膨大なエネルギーを得られる。
 4. 石油や石炭を燃焼させて熱エネルギーを得るため、日本のエネルギー自給率を低下させる。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 高速道路の路線に沿うように、自動車の組み立て工場や部品工場が配置されている	愛知県の工業地帯の状況を確認すると、組み立て工場だけでなく、それらに部品を供給する関連工場も高速道路のインターチェンジ付近や沿線に集中していることがわかります。これは、部品の搬入から製品の出荷までを迅速に行うための合理的な配置といえます。新幹線は主に旅客輸送を担うため、工場の立地条件としては高速道路がより重要視されます。
問2	答え 1 地方中枢都市	地方中枢都市は、札幌市、仙台市、広島市、福岡市のように、各地方の経済や行政の管理機能が集中している都市を指します。これらの都市は交通網の結節点となっており、周辺地域から人口や事業所が集まる傾向にあります。
問3	答え 1 中京工業地帯	愛知県、三重県、岐阜県にまたがるこの工業地帯は、豊田市を中心とした自動車産業が極めて盛んです。日本の工業出荷額の合計において長年1位を維持しており、出荷額の約42.4%を輸送用機械が占めるといふ、特定の産業に強い特化が見られるのが最大の特徴です。
問4	答え 3 豆腐や納豆などの食用だけでなく、食用油の原料や家畜の飼料としても広く利用されているため。	大豆は日本の食卓に欠かせない豆腐や納豆の原料となるだけでなく、サラダ油などの食用油をしぼるための原料や、牛・豚・鶏などの家畜が食べる飼料（大豆粕）としても膨大な量が消費されています。このような多角的な需要を満たすためには、国内の限られた耕作面積での生産だけでは足りず、アメリカやブラジルなどからの大規模な輸入が必要となっています。そのため、生産量200千トンに対し輸入量が2,762千トンといった、供給の大部分を輸入に頼る構造になっています。
問5	答え 1 技術革新や設備投資が盛んに行われたことで、製造業や建設業を中心とした第二次産業が経済成長を牽引した。	高度経済成長期には、積極的な技術革新と大規模な設備投資により、製造業（特に重化学工業）や建設業が飛躍的に発展しました。これに伴い、労働力が農業などの第一次産業から第二次産業や第三次産業へと移動する「産業構造の高度化」が進みました。この時期、日本は世界有数の工業国としての地位を確立しました。
問6	答え 4 千葉県	千葉県は、東京湾沿岸に広がる京葉工業地域の中核を担っており、石油化学コンビナートが集中しているため、石油・石炭製品の出荷額が非常に多いという工業的特色があります。一方で、大消費地である東京都に近い立地を活かした近郊農業も盛んであり、野菜の産出額でも全国上位に位置するという、農工商面でバランスの取れた産業構造を持っています。
問7	答え 1 大都市の市場が近くにあり、鮮度が重視される作物を収穫後すぐに届けられるため。	近郊農業において葉物野菜や花が選ばれる理由は、それらが「重くてかさばる」あるいは「鮮度の低下が非常に早い」という性質を持っているからです。大消費地の市場と産地が隣接していれば、朝に収穫したものをその日のうちに店頭に並べることが可能になり、消費者の「新鮮なものを買いたい」というニーズに応えることができます。選択肢にある「出荷時期をずらす（促成栽培・抑制栽培）」や「広大な農地（大規模農業）」といった特徴とは区別して理解する必要があります。
問8	答え 1 排他的経済水域（沿岸から200海里以内）	国連海洋法条約に基づき、沿岸から200海里（約370km）までの範囲は、沿岸国が漁業資源や鉱物資源に対する主権的権利を持つことができます。日本は島国であり、多くの離島を有しているため、国土面積の約12倍にも及ぶ広大なこの水域を確保しています。
問9	答え 1 鹿児島県	日本の茶の産地は、産出額の約3割を占める静岡県と、それに次ぐ約29パーセントを占める鹿児島県が二大産地となっています。この2県で全国の産出額の約6割を占めており、特に鹿児島県は広大な台地を利用した大規模な機械化農業が盛んです。京都府は約10パーセントで第3位となっています。
問10	答え 1 インバウンド消費	外国人旅行者が日本国内に滞在して行う消費活動を「インバウンド消費」といいます。近年、日本の経済成長や地域活性化において、この観光産業がもたらす経済効果が非常に重視されるようになってきました。これに対し、自国民が海外へ旅行して消費することは「アウトバウンド消費」と呼ばれます。
問11	答え 1 国内消費量と国内生産量の差（約400万トン）を輸入に頼っているため、自給率が下がっている。	食料自給率は「国内消費量（分母）のうち、どれだけ国内生産（分子）でまかなえているか」を示す指標です。1980年にはこの両者がほぼ等しかったため自給率は高い水準にありましたが、2012年の統計に見られるように、国内生産量が消費量の半分程度まで減少すると、不足分を海外からの輸入で補わざるを得なくなります。分子となる国内生産量が減少することで、計算上の自給率は必然的に低下する仕組みになっています。
問12	答え 1 茶	静岡県の牧之原台地や、鹿児島県のシラス台地などの広大な台地では、水はけの良い土地を活かしてこの作物の栽培が大規模に行われています。上位2県である静岡県と鹿児島県だけで全国の収穫量の約3分の2を占めていることが、この農産物の大きな統計的特徴です。
問13	答え 1 潮目（潮境）	暖流である黒潮と寒流である親潮がぶつかる場所では、それぞれの海流に乗って回遊する多様な魚種が集まります。また、性質の異なる海水が衝突することで海水がかき混ぜられ、深層から栄養分が浮上してプランクトンが豊富に発生するため、それを餌とする魚が多く集まる好漁場となります。三陸沖はこの現象が顕著であり、世界三大漁場の一つに数えられています。
問14	答え 2 発電時に二酸化炭素を排出せず、地球温暖化の防止に貢献することができる。	地熱発電、風力発電、太陽光発電はいずれも再生可能エネルギーの一種です。これらは化石燃料を使わないため、発電の過程で二酸化炭素を排出しないという利点があります。一方で、天候など自然条件によって発電量が左右されやすいという課題も抱えています。